

令和7年度 自己評価および学校関係者評価書

令和8年2月27日
函館市立鍛神小学校

1 本年度の重点教育目標

やさしい心をもち 自ら学ぶ子

2 本年度の取組の重点

① 組織力の強化 ② 確かな学びの実現 ③ 特別支援の教育の充実 ④ 豊かなつながり

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
① 組織力の強化	4つのワークの継続 ・チームワーク（連携・協働、報連相確の徹底） ・ネットワーク（家庭や地域、関係機関との連携） ・フットワーク（素早い対応） ・ハートワーク（愛情と情熱と相手意識）	a	・分掌内での連携・協働を図りながら教育活動を推進していく ・丁寧な説明と対応に努め、家庭の理解を得ながら、連携・協働を推進していく	b	B	
② 確かな学びの実現	学習規律の徹底 ・「鍛神スタンダード」の徹底	b	・学力向上や校内研究と関連づけた取組を積み重ねていく	a	A	
	指導の充実 ・個別最適な学びと協働的な学びの実現 ・ICTの活用 ・算数の習熟度別・少人数指導 ・基礎基本の定着 ・「自ら学ぶ」学習習慣の定着 ・自ら運動や遊びに取り組む意識の向上	a	・個別最適な学びと協働的な学びにあったアプリの効果的活用を推進していく（生成AIの活用）	a	A	
	校内研究の充実 ・日常の授業改善と公開 ・問題解決的探求型授業の充実（ICT活用） ・対話や交流で思考を深める授業実践	a	・授業にあった効果的なICTの活用を推進していく	a	A	
③ 特別支援教育の充実	インクルーシブ教育を意識した取組の充実 ・個に応じた交流と共同学習の充実 ・分かる授業の充実（ユニバーサルデザイン・合理的配慮） ・特別支援委員会の充実と関係機関との連携	a	・個に応じた支援・指導ができるよう、組織的な取組の充実や関連機関との連携を強化していく	a	A	
④ 豊かなつながり	つながりを意識した教育活動の充実 ・教科横断的な学び 心のつながりを大切にした指導の充実 ・自らするあいさつの定着 ・やさしさを育む取組の推進 ・読書に親しむ活動の継続	b	・教科と関連させながら、より充実した教育活動を推進していく（1年を見通した教育課程の推進） ・学校外でのあいさつの定着を図る ・家庭と連携した読書活動の啓発に努める（家庭での読書活動の推進）	a	A	
	地域に学ぶ教育活動の充実 ・地域の教育力の活用、関係機関との連携 ・義務教育9年間を見通した子どもの育成（小中連携） ・幼稚園、保育園、福祉施設との連携	a	・地域人材、地域素材などの掘りおこし、地域・関係機関と関連・連携した教育活動を取り入れていく ・中学校からの出前授業を充実させ、中学校への接続をスムーズにしている ・幼保小の連携の充実と強化に努め、協働しながら推進していく	a	B	・学童利用者も増えているので、学童との連携も推進してほしい ・幼保小連携で、教職員同士の共通理解が図れると、有意義なものなと思います

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。